



SUWADA

FACTORY SHEET



大正15年(1926年)、世界有数の刀物産地、新潟県三条市にて創業。

「刃と刃をぴったり合わせて切る」ニッパー型刀物に特化した鍛冶屋。

主力商品は「ニッパー型高級つめ切り」。

その他にも、盆栽用鋏や栗の皮むき鋏など

「美」を高める一助となる逸品をつくり続けています。



SUWADA®
SINCE 1926

創業以来こだわり抜いてきたのは、職人の手作業によるものづくり。

材料選びから仕上げまで、全て職人の手作業で行っています。

よって、諏訪田製作所のつめ切りは、切れ味・デザイン共に
諏訪田製作所の職人にしかつくれないものとなりました。

使った人の感動をつくること。

それこそが、職人が心血を注いで目指しているものです。

諏訪田製作所は、探しています。待っています。

感動をつくる職人となるあなたを。



いつでも、誰でも、予約なしで職人の作業場を見学できる。それがオープンファクトリーという名の新しい工場の形です。

嘘やごまかしのない、実直なものづくりの現場を見ていただくことで、お客様に納得して商品を買ってもらいたい。そんな思いから、平成23年（2011年）に工場を開放しました。

「お客様に現場を見ていただくこと」で、社員のモチベーションは上がりました。

開かれた工場に身を置く。

そこには、閉じた工場にはないやりがいが満ち溢れています。

職人自らがご案内！

訪れたお客様を、職人自らがご案内。実際にものづくりをしている職人の経験も織り交ぜながらの説明は、お客様からも好評です。

また、職人たちも、ご案内が終わったあとは「また仕事を頑張ろう」と思えるのだとか。

この活動は、職人から自発的に始まりました。

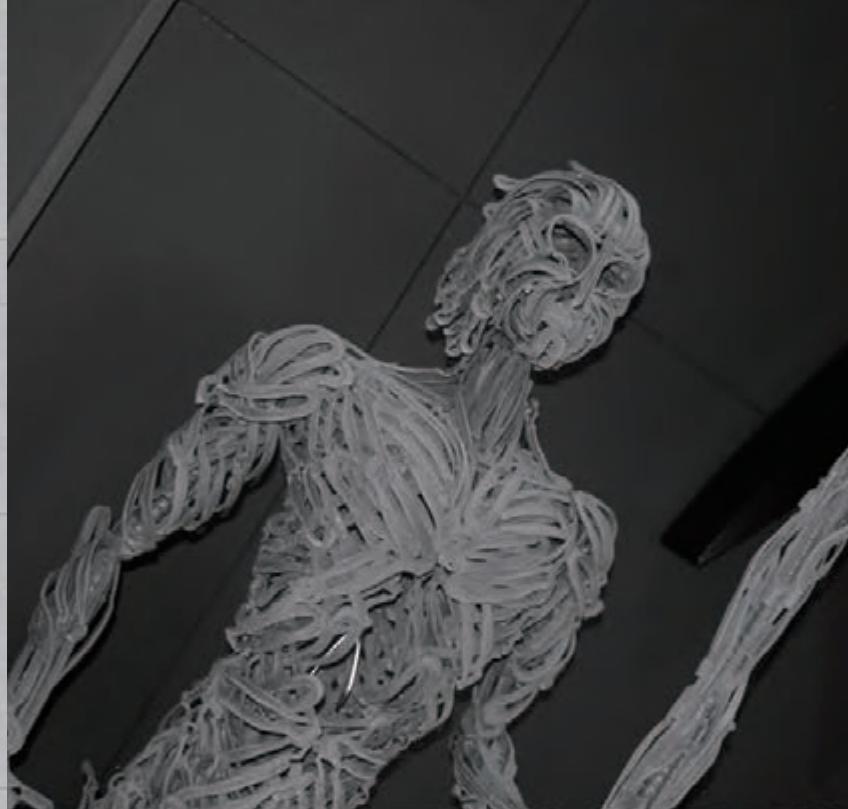
毎日全員で掃除！

自分たちが快適に作業できるように、という気持ちだけでなく、訪れる人のことも思いながら、毎日、清掃活動をしています。

お盆や年末年始などの長期休暇前には、半日費やして大掃除をするのが恒例です。

そのため、工場内はいつも整理整頓されています。

諏訪田製作所が90年間こだわり続けてきたのが「職人が手作業でものづくりをする」ということ。ボタンを押せばあとは機械がやってくれるような工程は、諏訪田製作所にはありません。では、どうして「手作業」にこだわるのでしょうか。それは、高品質な商品をつくりたいから。機械ではできない細やかな作業こそ、よく切れるつめ切りをつくるのために必要です。もちろん、その作業は一筋縄ではいかないものばかり。入社してしばらくは、先輩職人から習った工程を、「どうしてできないんだろう」と一生懸命考えながら作業する日々が続きます。80歳を越える大ベテランの職人をもってしても「まだまだ上へ行ける」という終わりなき道。諏訪田製作所には、その大きな壁に一生を賭けて立ち向かおうと誓った職人が集まっています。心底ものづくりを愛する職人と、肩を並べて働く。そこには、機械のボタンを押すだけの毎日とは比べ物にならないほどの発見があり、隣の先輩を横目で盗み見ては、「自分も早くこうなりたい!」というやる気を出す毎日が待っています。



とにかく ものづくりが好き!

工場内には、製造の過程で出てしまう廃材を使ったシャンデリアやオブジェが。社屋は鍛冶屋のシンボルカラーである黒で統一されていますが、工場内の機械も、職人が一台一台ペンキで黒く塗ったもの。工場内の至るところから「ものづくりが好き」という声が聞こえてくるようです。その他にも、掃除用具の外れてしまった部品をあっという間に溶接してしまう、工場で使うiPadの液晶をピカピカに研磨してしまうなど職人はとにかく手を動かして何かをつくる事が好きです。

自分の仕事に責任を持つ!

諏訪田製作所は、自分たちの仕事に最後まで責任を持つメーカーでありたいと考え、アフターメンテナンスは永久保証です。これができるのも、手作業だから。機械ではなかなかこうはいきません。「このつめ切りじゃないと嫌だから、夫婦での旅行にも持って行った。思い出の品です」お客様からのそんなお手紙が届くことも。



自社工場での 一貫した製造！

諏訪田製作所は、自社の工場で材料選びから完成まで一貫して製造しています。それだけでなく、商品のデザイン・開発も職人たちが手掛けています。やりたいことがやれる。それが、諏訪田製作所の職人です。



自分でプロジェクトを 立ち上げられる！

挑戦できるのは、商品デザインだけではありません。前述の「職人によるお客様のご案内」をはじめとした顧客満足を考える委員会は、1人の職人の「やってみたい」からスタートしています。

創業90周年を盛り上げていく実行委員会もその1つの例。新入社員からベテラン社員まで幅広い層が立ち上がり、毎週ミーティングを重ねています。

年齢や経験値を問わず、挑戦する機会が与えられています。



努力がきちんと 還元される！

手作業にこだわりを持つ諏訪田製作所ならではの評価の仕方、それが「工程単価」です。職人は自分の毎日仕事の成果を記録し、提出します。

全ての工程には単価が設定・公開されておりこれを元に給与が決まり、支払われる仕組みです。

自分の仕事が分かりやすく、目に見える形で返ってくるため、職人のモチベーションアップにつながっています。

また、年に1度、社員全員が社長と面談する機会を設けられています。自分のこれまでとこれからを、直接経営者に話すことができます。



諏訪田製作所が
探しているのは
職人を志すあなたです。

つめ切りができるまでの工程を順に紹介します。
それぞれの工程ごとでチームを作り、リーダーの
指示のもと、作業を進めていきます。入社した際
は、いずれかのチームに属することになります。
諏訪田製作所では、1人の職人が1丁のつめ切りを
最初から最後までつくっているわけではありません。

前の工程から引き継いだつめ切りを加工し、次の
工程を担当するチームに受け渡していきます。
つめ切りをリレーのバトンと考えると、イメージ
しやすいかもしれません。

鍛造

材料を熱し400トンの力をかけて
プレスし商品のかたちに成形する。

大雑把な仕事に見えますが、そんなことはありま
せん。型の状態、その日の気温、加工のタイミング
などで仕上がりが変わるので、繊細さが求められ
ます。体の底まで響く大きなプレス音、煌々と
燃える材料など、五感を刺激する工程です。

部品加工

合わせ面の内側を平らに削り、垂直に
穴をあける。つめ切りの形に組み立てる。

この工程で求められるのは0.1mm以下の単位での
正確さ。つめ切りの動作性といった使い心地に
直結するため、緊張感を持って仕事をしています。

研磨チーム
月の生産予定アイテム
100%達成!





人 研磨・研削

形状をつくり磨き上げる。

切れ味よりも早く、目で見た瞬間に分かってしまうのが表面の仕上げ（磨き）です。そのため1つ1つの作業には高く難しい基準が設けられています。職人たちは自分の手がけた商品を自信を持ってお客様に手に取ってもらうため、絶対に妥協はしません。



人 合刃・刃つけ

つめの形に沿ってカーブした刃を極限まで薄く研ぎ、その刃が隙間なく合うようにヤスリで調整する。

刃物の価値を左右する切れ味を生み出す工程です。先輩社員にアドバイスをもらいながら、自分の思い描く完成形を目指していきます。ベテランと若手が肩を並べてすぐそばで作業している環境です。



人 検品・出荷

切れ味はどうか、磨き残しはないか。1丁ずつ確認する。

自分でお金を出して買ってもいいと思えるかそんな風に自問自答しながら品質のチェックをしていきます。

根気のいる仕事ですが、本当に納得できたものだけを世に送り出しています。頼れる最後の砦と言えます。

あなたも
私たちの新しい仲間に
なりませんか。



SUWADA®

SINCE 1926

株式会社 諏訪田製作所
創業 大正15年
設立 昭和49年7月
資本金 1,000万円
代表取締役 小林 知行
従業員 50名

営業日
工場：火曜日～土曜日（月・日・祝は除く）
ショップ：年中無休（年末年始は除く）

営業時間

工場：8:00～17:00
ショップ：10:00～18:00

〒959-1114 新潟県三条市高安寺1332番地

TEL 0256-45-6111

FAX 0256-45-4528

E-mail jinji@suwada.co.jp

HP/JAPAN

<http://www.suwada.co.jp/>

HP/LONDON

<https://www.suwadalondon.co.uk/>

BLOG

<http://ameblo.jp/suwadaopen>

NEWS

<http://www.suwada.co.jp/#news>

facebook/JAPAN

<https://www.facebook.com/suwada.open.factory>

facebook/LONDON

<https://www.facebook.com/Suwada-London-Ltd-711849148907725>